

「知の都」長崎における商社の事業活動

坂本龍馬が、長崎に日本初の貿易商社・亀山社中（後の海援隊）を設立したのが、1865年（慶応元年）。国際貿易を通じて「新たな日本の扉を開くため」に努力し、「世界と向き合うことのできる日本」実現の先駆けとなることを目指した。必要な場所まで、世界最先端のアイテムとテクノロジーを届けることをうたい、人員・物資を船で運搬する運輸業など各種の商業活動を行う。現在の商社の業務は多岐にわたるが、その原形は長崎から始まったといわれる。

長崎の主力産業である造船業向けの取引を中心に、地場経済密着で地域の発展に貢献する住友商事九州長崎支店と双日九州長崎支店の活動についてお話を伺った。



インタビュー

長崎の歴史と共に歩み続ける 住友商事九州(株)長崎支店

住友商事九州株式会社 取締役 長崎支店長

かえりやま ゆうじ
帰山 祐治



330年前に始まった住友と長崎の歴史

住友が初めて長崎に出店したのは、天和^{てんな}初年ごろ（1680年ごろ）で、三代目住友友信の時代といわれている。当時、港に面した浦五島町（現五島町）の一角にあった長崎店は、銅蔵、銅掛場などを備えた、かなりの規模のものであったと伝えられる。この時代の輸出用銅は、大阪^{うなぎだに}鰻谷の吹所で精錬され^{さおどう}棹銅となり、船で運ばれて長崎店に納められた後、出島オランダ屋敷や新地唐人蔵などに運ばれたそうである。330年前から、住友と長崎はグローバルな仕事で結び付いていた。

長崎支店は、1946年に住友商事の前身である日本建設産業（戦後、財閥解体が緩和さ

れるまでの間の名称）の長崎出張所が開設されて以来、64年余りの歴史を有する。

長崎支店の事業活動

現在、長崎支店の取引は、大半が三菱重工業(株)長崎造船所とその関連企業との取引であるが、そのほかにも、例えば長崎市内の主要公共交通機関である長崎電気軌道(株)にも住友金属工業(株)の製品を長年ご愛顧いただいている。

当社は、旧住友商事(株)九州・沖縄ブロックとその傘下の4事業会社が統合、発足し、2010年10月で丸5年となる。その間、新会社として^{ひょうぼう}地域密着、地域貢献を標榜し、地域密着の営業展開を推進したことにより、地場の方々にも評価いただき、名実共に九州・長崎での総合

商社となった。

主たるお客さまである長崎造船所の主力事業は、ボイラーやタービン等の機械部門と造船部門。ボイラーには大量の鋼管が使用されるが、ボイラー用鋼管は住友グループの住友金属工業(株)の主力製品のひとつで、長崎造船所にも高く評価していただき、同社の製品を長年にわたりご愛顧いただいていた。また、同造船所で製造している防衛関連製品のさまざまな構成品を納めているが、この分野にても住友グループの日本電気(株)、日本航空電子工業(株)の製品をご愛顧いただき取引をさせていただいており、これら2つの事業が当長崎支店事業の大きな柱である。

また、ユニークなところでは、長崎造船所は客船も建造しており、2004年に竣工した大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」「サファイア・プリンセス」の建造に際し、輸入調度品のロジスティックスに関して、本



社の運輸部隊、欧州住友商事関係部署との協働により同造船所に協力することができた。

今後の活動、抱負

地域の独立法人として、地域経済に密着し、取引先のニーズに合った提案、きめ細かなサービスの提供を通じて、今後とも地域の発展に貢献しながら業容の拡大に努めていきたい。さらに、チャンスがあれば、長崎県、長崎市のお役に立つような取り組みを行いたいというのが、われわれの願いである。

インタビュー

地域と共にグローバルな発展を目指す 双日九州(株)長崎支店

双日九州株式会社 長崎支店

副支店長	ほそかわ 細川	としお 敏夫 (写真中央)
機械課課長代理	ながまつ 永松	りょうじ 亮二 (写真右)
機械課	いちき 市来	こうたろう 剛太郎 (写真左)



長崎支店の生い立ち

双日九州は、双日グループの一翼を担う国

内地域独立法人で、2003年10月にニチメン九州と日商岩井九州の合弁によりニチメン・日商岩井九州が発足し、2004年4月に社名変

更して双日九州として現在に至る。

地域に根差し、取引先と共に発展する地域密着型商社を目指すとともに、九州と世界を結ぶグローバルな事業活動に取り組む。長崎支店の生い立ちは、日商岩井の前身である日商長崎出張所と岩井産業長崎出張所が開設された1946年にさかのぼり、64年余りの歴史を有する。

長崎支店の注力事業

長崎支店は、双日九州、双日グループの重要拠点として、主に船舶、非鉄金属、環境・新エネルギーを基軸に、新造船向け船用機器、新エネルギー設備機器、非鉄金属類輸入、環境リサイクル品の取り扱いなどに注力している。

具体的には、三菱重工業(株)長崎造船所が製造する大型風力発電設備の主要機器・原材料として、当社出資先の福岡在機器メーカーの増速機や特殊電線、米国より輸入した翼用バルサ材等を納めている。

また、同造船所で建造されるLNG船、客船、艦艇などの高付加価値船向けの船舶機器として、ガスコンプレッサー（仏）、船舶制御装置（ノルウェー）等多様な機器を輸入し、販売している。さらに同造船所には、主に海外で受注した火力発電所、プラント向けの設備



機械も納めている。

そのほか、非鉄原料の分野では、東南アジア等からの銅合金原料、アルミ原料、中国からのメタルシリコン等を輸入し、日本の船用機器メーカーや自動車関連の九州在アルミ合金メーカーを中心に販売を展開している。また、環境リサイクルの分野では、廃タイヤチップをボイラーのバイオ燃料補助材として、国内外から手当てし、主に日本の製紙メーカーや化学メーカーに納入し、新しいエネルギー源ともなっている。

今後の活動、抱負

今後とも、三菱重工業(株)長崎造船所との関係を最重要視し、国内外からの優れた製品を提案していきたい。その上で、地場企業、海外メーカーとの関係を一層強化し、次の発展を目指したいというのが、私どもの希望である。

また環境関連ビジネスとして、風力発電設備の海外への販売にも積極的に取り組んでいきたい。さらに、経済性の追求とともに、社会性と環境性を重視した地域密着型ビジネスとして、環境リサイクルほかの事業化にも積極的に取り組んでいく方針である。

(2010年2月10日 長崎にて

聞き手：広報グループ 山中) 